E-3

日本手話(愛媛方言)に見られるいわゆる等位接続構造制約違反について *

内堀朝子（東京大学）　　上田由紀子（山口大学）
uchibori@cce.t.u-tokyo.ac.jp　　ykueda@yamaguchi-u.ac.jp

要旨

本発表では，上田・内堀(2022)が報告した日本手話(JSL)の愛媛方言における接続詞としての非手指表現(NMM)のうち，主に以下 i-iii)の 3 種類を取り上げ，小谷(2009)の言う JSL における等位接続構造制約(CNC)違反に関する観察では明確でなかった点を補う事実を報告し，それぞれの構造を検討する。i)名詞句の等位接続詞 *hn-SOTP(NP)*による構造では，WH 疑問および話題化に関して CNC 違反が見られ，Chomsky(2021)の提案する Form Sequence によって形成される等位接続構造を仮定することができる。ii)節の等位接続詞 *hn* は接続要素が CP を成すため，一見 CNC 違反の例外のように思われる場合でも，実際の構造に問題はなく，一方 CNC 違反であるように見える場合は，等位接続構造内で素性照合・素性共有に問題が生じていることを指摘する。iii)RS 領域を接続する *hm-RS* に関する事実からも，等位接続構造が示唆される。

1．はじめに

(1) 「日本手話の語順は、頭の動きに着目することによって初めて正しく分析できる。要素間のより詳細な関係は、必要に応じて機能語（接続詞）によって標示されるが、その場合にも頭の動きは省略できない。日本手話の文構造を示す第一義的な標識は、あくまで頭の動きなのである」(市田(2005: 98))

(2) JSL（愛媛方言）における非手指表現（以下，NMM）による接続詞として，以下の 4 種類が観察される。（上田・内堀(2022)（以下，U&U））

① *hn-STOP(NP)*：動作の最後で頭が止まる頷き（首を下まで振りきらない頷き）が名詞句どうしの等位接続詞として，接続要素ごとに名詞句の後半に，同時に生起する(3)。(Cf. 岡・赤堀(2011))

$$[_{?}{}^{1}\ [_{NP1} \ldots \overset{\text{hn-STOP(NP)}}{\text{N}_1}\ ]\quad [_{NP2} \ldots \overset{\text{hn-STOP(NP)}}{\text{N}_2}]\ ] \qquad (= \text{U\&U}(17))$$

② *hn*：首を下まで降ろす頭の動き（いわゆる頷き）が CP（主語や時間表現などの話題化要素・アスペクト要素を含む）どうしの等位接続詞として機能する。CP 表出後に生起する(6)。(Cf. 小谷(2009))

$$[_{?}[_{CP1}\ [_{IP} \ldots\ ]\ C_1\ ]\ \overset{\text{hn}}{}\ [_{CP2}[_{IP} \ldots\ ]\ C_2]\ ] \qquad (= \text{U\&U}(44))$$

③ *hn-STOP(VP)*：動作の最後で頭が止まる頷き（首を下まで振りきらない頷き）が動詞句を主節に付加，すなわち従属接続して，付帯状況を表わす。付加詞である動詞句内の動詞の後半に，同時に生起する(7)。

$$[_{CP} \ldots [_{VP} \ldots \overset{\text{hn-STOP(VP)}}{\text{V}}\ ]\quad \ldots \text{V} \ldots \text{I} \ldots \text{C}\ ] \qquad (= \text{U\&U}(68))$$

④ *hm-RS*：RS 領域どうしの接続詞であり，接続詞として[+RS]を選択しているため，第一接続要素に

* 本研究にご協力いただいた日本手話ネイティブサイナーの方に，深く感謝申し上げる。本研究の前身となる研究には，日本英語学会第 39 回大会ワークショップ第 2 室(2021 年 11 月 21 日開催)の参加者の皆様及び Seeking a Genuine Explanation（慶應生成文法研究会）の皆様から，貴重なご意見をいただいた。本研究は JSPS 科研費 JP21K00499(研究代表者：内堀朝子)及び JSPS 科研費 JP21K00528（研究代表者：上田由紀子）の助成を受けた。

[1] 等位接続構造について，等位接続詞 *hn* が主要部となるような句（例えば *hn* P）は仮定しない。詳しくは 4 節で，議論する。

引用 RS または行動 RS，後続する接続要素に引用 RS が生じる。先行する RS 領域の終了時点の頭の位置から，後続する RS 領域の開始時点の頭の位置まで，止まることのない頭の動きが生じる(8)。

$$\ldots\ \overbrace{[X_{[+RS]}\ \ldots\ ]}^{RS_\textbf{hm-RS}}\quad \overbrace{[Y_{[+RS]}\ \ldots\ ]}^{RS}\ \ldots \qquad (=U\&U(84))$$

(3) $\overbrace{\text{TANAKA}}^{\textbf{hn-STOP}(NP)}$ $\overbrace{\text{SATO}}^{\textbf{hn-STOP}(NP)}$[2] HAWAII GO ‘田中と佐藤が，ハワイに行く’

(4) 【文脈】私と妹の会話。夜に家で，家事・食事・お風呂その他が全部終わって，これから自由時間。

(5) 妹の質問：PT_2[3] SLEEP TILL DO $\overbrace{\text{WHAT}}^{WH}$ ‘寝るまであなたは何をする？’

(6) 私の答え 1：$\overbrace{PT_1}^{TOP}$[4] MANGA READ $\overbrace{\text{SOMETHING}}^{\textbf{hn}}$ EAT[5] ‘私はマンガを読む，そして何かを食べる’

(7) 私の答え 2：$\overbrace{PT_1}^{TOP}$ MANGA $\overbrace{\text{READ}}^{\textbf{hn-STOP}(VP)}$[6] SOMETHING EAT ‘私はマンガを読みながら，何かを食べる’

(8) 私の答え 3：$\overbrace{PT_1}^{TOP}$ $\overbrace{\text{MANGA READ}}^{RS}$ $\overbrace{\text{SOMETHING EAT}}^{\textbf{hm-RS}\ RS}$ ‘私は，「マンガ読むよ～」「何か食べるよ～」’

(9) JSL の文の等位接続には，顕在的な等位接続詞である頷きと，表出されない「非顕在的接続詞」（名詞の等位接続を除く）が用いられる。（小谷(2009)）

(10) **Coordinate Structure Constraint**（以下，CSC）: “*In a coordinate structure, no conjunct may be moved, nor may any element contained in a conjunct be moved out of that conjunct.*” (Ross(1967: 161)

(11) a. *Which novel did John read [*t* and a play] during spring break? (Freidin (2012:27(15a))
b. *Which play did John read [a novel and *t*] during spring break? (Freidin (2012:27(15b))

(12) a. *Which trombone did [the nurse polish *t*] and [the plumber computed my tax]? (Ross 1967:160(4.82d))
b. * Whose tax did [the nurse polish her trombone] and [the plumber computed *t*]? (Ross 1967:160(4.82f))

(13) 小谷(2009)における JSL の等位接続構造制約違反（小谷(2009:(15-16)）：

a. *花$_i$ [$_{\&P}$ [[$_S$ あなた 私 お金 くれる] &][7] [$_S$彼女 私 t_i くれる]]] （ラベル表記は原文通り）

b. *[$_{\&P}$ [[$_S$ あなた t_i 食べる] &] [$_S$彼 リンゴ 食べる] 何$_i$ （ラベル表記は原文通り）

(14) 小谷(2009)では，市田(1994)，堀内他(2008)に従い，いわゆる頷きを JSL の顕在的等位接続詞と見なし，頭の動きについてそれ以上の観察はしていない。

(15) 本発表の目的：JSL(愛媛方言)において異なる性質を持った接続詞として働く複数の NMM(頭の動き)のうち主に *hn-STOP(NP)* ((2)-①)と *hn* ((2)-②)について，それらを含む文に CSC 違反がどのように見られるかを報告し，その接続構造について Chomsky (2021)に基づき検討する[8]。

---

[2] 二つ目の *hn-STOP* は音韻的に弱形となることもあるが，義務的である。

[3] PT は指さしを表わす。手話言語の指さしは代名詞として機能するが，人称素性の有無や種類については議論が分かれている(Cormier(2012))。本発表では 1/2/3 人称の人称素性を仮定して，表記している。

[4] *TOP* は，話題化を表す NMM（目の見開き，眉上げ，話題の終わりの頷き，短い間）を表す。話題化 NMM に含まれる頭の動きは *hn* ((2)②)と類似し，あご・首が下まで下りきっていると観察される。

[5] 以降の *hn* および *hn-STOP(VP)*を含む例では，接続要素内に RS が任意に生起できるが，ここでの議論には影響がない。接続要素内に RS が生起する場合および RS を含む領域どうしの接続については，U&U および 5 節の議論を参照。

[6] *hn-STOP(VP)* は，*hn-STOP(NP)*と同じ頭の動きで，音韻的に *READ* の後半で手指と同時に生起する必要がある。

[7] これまでに，小谷(2009:34)は等位接続構造の非対称分析を採用し，等位接続詞‘&’(頷きとして表出)を主要部としている。浅田(2019:26-27)も同様に非対称分析を採るが，主要部として音形のない Junction head を仮定する。ここではそれらと異なる構造を検討する。ここでの分析は 4 節を参照。

[8] Tang and Lau(2012:341-346)によれば，他の手話言語においても等位接続構造がまばたき・首振り・頷きなどの NMM で標示され，アメリカ手話(ASL)や香港手話(HKSL)では，話題化やWH疑問文に CSC 違反が見られる。

2．*hn-STOP(NP)*（(2)-①）による名詞句の等位接続に見られる CSC 違反

2.1 WH 疑問文

(16)【文脈】友達（私，佐藤，田中…）で，食べものや飲み物を持ち寄って，パーティーする。佐藤が，ワインのボトルと，お皿に布巾をかけたものを，持ってきた。

(17) SATO PT$_3$ [WINE CHEESE] BRING ‘佐藤は，ワインとチーズを持ってきた’
(TOP; hn-STOP(NP); hn-STOP(NP))

(18) *SATO PT$_3$ [WINE] BRING WHAT ‘佐藤は，ワインと何を持ってきたの’
(TOP; hn-STOP(NP); WH)

(19) *SATO PT$_3$ [CHEESE] BRING WHAT ‘佐藤は，何とチーズを持ってきたの’
(TOP; hn-STOP(NP); WH)

2.2 話題化

(20)【文脈】今度，友達どうしで，持ち寄りパーティーをすることにした。その計画を話し合っているところ。誰が何を持ってくるか…など。

(21) PT$_1$ CONVENIENCE-STORE [BEER POTATO-CHIPS] BUY
(TOP; hn-STOP(NP); hn-STOP(NP))

‘私は，コンビニでビールとポテチを買う’

(22)【文脈】誰かが，「俺，ビールとポテチ大好きだ！」と言ったのを見て...

(23) [BEER POTATO-CHIPS] PT$_1$ CONVENIENCE-STORE BUY
(TOP[9]; hn-STOP(NP); hn-STOP(NP))

‘ビールとポテチは，私がコンビニで買う’

(24)【文脈】誰かが，「俺，ビール大好きだ！」と言ったのを見て...

(25) *BEER PT$_1$ CONVENIENCE-STORE [POTATO-CHIPS]] BUY
(TOP; hn-STOP(NP))

‘(lit.)*ビールは，コンビニで　とポテチを買う’

(26) *BEER PT$_1$ CONVENIENCE-STORE [POTATO-CHIPS] BUY
(TOP; hn-STOP(NP); hn-STOP(NP))

‘(lit.)*ビールは，コンビニで　とポテチを買う’

(27)【文脈】誰かが，「俺，ポテチ大好きだ！」と言ったのを見て...

(28) *POTATO-CHIPS PT$_1$ CONVENIENCE-STORE [BEER] BUY
(TOP; hn-STOP(NP))

‘(lit.)*ポテチは，コンビニでビールと　を買う’

(29) *POTATO-CHIPS PT$_1$ CONVENIENCE-STORE [BEER] BUY
(TOP; hn-STOP(NP); hn-STOP(NP))

‘(lit.)*ポテチは，コンビニでビールと　を買う’

3. *hn*（(2)-②）による節の等位接続における一見 CSC 違反のように見える例について

3.1 WH 疑問文(U&U)

(30)【文脈】私と妹の会話。夜に家で，家事・食事・お風呂その他が全部終わって，これから自由時間。

---

[9] 話題化 NMM（脚注 4 参照）に含まれる頭の動きは，接続詞 *hn-STOP(NP)* の頭の動きに続いて義務的に現われる（*hn-STOP(NP)* で下げた頭を元位置に戻して上げたままでは非文）。

(31) 妹の質問：PT_2　SLEEP　TILL　DO　$\overline{\text{WHAT}}^{WH}$　　‘寝るまであなた何をするの’

(32) 私の答え 1：$\underline{PT_1}^{TOP}$　MANGA　READ　$\underline{\text{SOMETHING}}^{hn}$　EAT　‘私はマンガを読む，そして何かを食べる’

(33) (32)に続く妹の質問：$\underline{PT_2}^{TOP}$　MANGA　READ　$\underline{\text{EAT}}^{hn}$　$\overline{\text{WHAT}}^{WH}$　‘あなたはマンガを読む，そして何を食べるの’

(34) (=33) [? [$_{CP1}$ [$_{IP}$ ...] $C_{1[-Q]}$]　$\underline{\text{[}_{CP2}}^{hn}$ [$_{IP}$ ... $\overline{\text{(WHAT)}}^{WH}$ ...] [$C_{2\,[+WH]}$ $\overline{\text{WHAT}}^{WH}$[10]]]]

(35) 【文脈】私はあなたと，話をしている。この場にいない，共通の友人女性がいる。3 人とも果物が好きで毎日，食べる。各自が食べたものの話をしている。

(36) $\underline{PT_2}^{TOP}$　EAT　$\underline{\text{WHAT}}^{WH}$　$\underline{\text{PT}_3}^{hn}$　$\underline{\text{APPLE}}^{TOP}$　EAT　‘(lit.)あなたは何を食べるの，そして彼女はリンゴを食べる’

(37) (=36) [? [$_{CP1}$ [$_{IP}$ ... $\overline{\text{(WHAT)}}^{WH}$ ...] [$C_{1[+WH]}$ $\overline{\text{WHAT}}^{WH}$]]　$\underline{\text{[}_{CP2}}^{hn}$ [$_{IP}$ ...] $C_{2[-WH]}$]]]

(38) (= U&U(34)) *hn* は，それ自身の節タイプを標示する C を持つ独立の CP を等位接続する接続詞

(39) (31)に対する私の答え 2：$\underline{PT_1}^{TOP}$　SOMETHING　READ　$\underline{\text{FRUITS}}^{hn}$　EAT　‘私は何かを読む，そして果物を食べる’

(40) (39)に続く妹の質問：*$\underline{PT_2}^{TOP}$　READ　$\underline{\text{FRUITS}}^{hn}$　EAT　$\overline{\text{WHAT}}^{WH}$　‘(lit.)あなたは何を読むの，そして果物を食べる’

(41) (=40)
*[? [$_{CP1}$ [$_{IP1}$ ... $\overline{\text{(WHAT)}}^{WH}$ ...] $C_{1[+WH]}$]]　$\underline{\text{[}_{CP2}}^{hn}$ [$_{IP2}$ ...] $C_{2[-WH]}$]]　$\overline{\text{WHAT}}^{WH}$]]

3.2 話題化

(42) (31)に対する私の答え 3：PT_1　KIMETSU　WATCH　‘鬼滅を見る’

(43) (42)に続く妹の発言 1：$\overline{\text{KIMETSU}}^{TOP}$　PT_1　READ　$\underline{\text{SOMETING}}^{hn}$　EAT　‘鬼滅は読む，そして何か食べる’

(44) (42)に続く妹の発言 2：*$\overline{\text{KIMETSU}}^{TOP}$　PT_1　$\underline{\text{READ}}^{\textbf{hn-STOP}(VP)}$　SOMETING　EAT　‘鬼滅は読みながら，何か食べる’

(45) (=43) [? [$_{CP1}$ $\underline{\text{TOPIC}}^{TOP}$ [$_{IP1}$ ... (TOPIC) ...]]　$\underline{\text{[}_{CP2}}^{hn}$ [$_{IP2}$ ...]]]

(46) 【文脈(30)】妹の発言：NOON　NEIGHBOR$_3$　STRAWBERY　$_3$GET$_1$.　$\underline{\text{STRAWBERY}_3}^{hn}$　$\overline{\text{BE}}^{TOP}$　PT_3
‘昼，隣からイチゴをもらった．ここにある’

(47) (46)に続けて妹の質問(=31): PT_2　SLEEP　TILL　DO　$\overline{\text{WHAT}}^{WH}$　‘寝るまであなた何をするの’

(48) (47)に対する私の答え 1：MANGA　READ　$\underline{\text{STRAWBERRY}_3\,\text{PT}_3}^{hn}$　EAT
‘マンガを読む，そしてそのイチゴは，食べる’

(49) (=48) [? [$_{CP1}$ [$_{IP1}$ ...]　]　$\underline{\text{[}_{CP2}}^{hn}$ $\underline{\text{TOPIC}}^{TOP}$ [$_{IP2}$ ... (TOPIC) ...]　$C_{2[+TOP]}$]]]

(50) (47)に対する私の答え 2：*$\overline{\text{STRAWBERRY}_3\,\text{PT}_3}^{TOP}$　MANGA　READ　$\underline{\text{EAT}}^{hn}$
‘(Lit.)そのイチゴは，マンガを読む，そして食べる’

(51) (=50) *[? $\underline{\text{TOPIC}}^{TOP}$ [$_{CP1}$ [$_{IP1}$ ...] $C_{1[-TOP]}$]]　$\underline{\text{[}_{CP2}}^{hn}$ [$_{IP2}$ ... (TOPIC) ...] $C_{2[+TOP]}$]]]

3.3 ATB

(52) 【文脈】私とあなた，友達どうしでお喋り。昨日，近所の中華料理店「餃子の王将」からテイクアウト

---

[10] JSL の WH 疑問文において，手指表現と NMM の 2 つの形態素からなる WH 要素が $C^0_{[+WH]}$へ移動する分析について，詳しくは Uchibori and Matsuoka (2016)を参照。

して食べたものの話をしている。

(53) 友人の質問：YESTERDAY ‘DUMPLING-GEN OSHO’ BUY $\overline{\quad}^{hn}$ EAT $\overline{\quad\quad}^{WH}$ WHAT　WH 疑問の ATB

‘昨日「餃子の王将」で何を買って食べたの’

(54) 【文脈(52)続き】友人が，「中華料理って言えば，私，餃子が大好き」と言ったので，私は...

(55) (54)に続く私の発言：$\overline{\quad\quad\quad}^{TOP}$ DUMPLING　BUY $\overline{\quad}^{hn}$ EAT ‘餃子は買った，そして食べた’　話題化の ATB

(56) (=53) [$_{CP}$ [$_{CP1}$ [$_{IP1}$ ... ($\overline{\quad\quad}^{WH}$ WHAT) ...] $C_{1[+WH]}$] $\overline{\quad}^{hn}$ [$_{CP2}$ [$_{IP2}$ ... ($\overline{\quad\quad}^{WH}$ WHAT) ...] $C_{2\,[+WH]}$] $\overline{\quad\quad}^{WH}$ WHAT]　（暫定）

(57) (=55) [$_{CP}$ $\overline{\quad\quad}^{TOP}$ TOPIC [$_{CP1}$ [$_{IP1}$ ... (TOPIC) ...] $C_{1[+TOP]}$] $\overline{\quad}^{hn}$ [$_{CP2}$ [$_{IP2}$ ... (TOPIC) ...] $C_{2[+TOP]}$]]　（暫定）

4. 等位接続構造と CSC (Chomsky 2021b)

(58) 自然言語には **unbounded unstructured sequences (UUSs)** が存在する。(Chomsky 2021b:30)

(59) John, Bill, my friends, the actor who won the Oscar, ... ran, danced, took a vacation ... (= Chomsky 2021b:31(28))

(60) UUS は，MERGE (Chomsky 2021a)[11]のような binary set formation では構造構築できない。

(61) Merge(X_1, ... , X_n, WS) = WS’ = {{X_1, ... , X_n}, W, Y}, satisfying SMT and LSCs　(Chomsky (2021b:20[D]))

(62) Form Sequence (FSQ): <&, X_1, ... , X_n>　(Chomsky (2021b:31(29))

(63) “*We may regard the Coordinate Structure Constraint (CSC) as a violation of the more stringent matching constraint on sequences.*” (Chomsky 2021b:32)

(64) Chomsky (2021b:33(45a-c))

a. (I wonder) [{John bought $what_1$}, {Bill handed $what_2$ to Tom}]

b. (I wonder) [$what_3$, C, <&, {John bought $what_1$}, {Bill handed $what_2$ to Tom}>]

c. (I wonder) what John bought and Bill handed to Tom　← ATB

(65) Chomsky (2021b:33(46ab))

a. *(I wonder) what John bought and Bill handed a sandwich to Tom.

b. (I wonder) [$what_1$, C, <&, { John bought $what_2$}, {Bill handed a sandwich to Tom}>]　← a CNC/matching violation

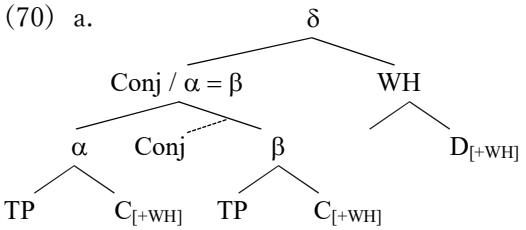
(66) *hn-STOP(NP)* は，英語の *and* と同じく‘&’の役割を持つ等位接続詞として機能する。（内堀(2021)）

(67) $\overline{\quad}^{TOP}$ PT_1 CONVENIENCE-STORE　<&, BEER, POTATO-CHIPS>　BUY　(& = *hn-STOP(NP)*)

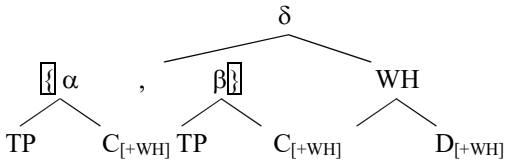
(68) (18)(19)(25)(26)(28)(29)は，等位接続詞 *hn-STOP(NP)* が顕在化した FSQ による構造が，CSC(または strict matching condition)に違反した例と言える。

(69) (40)(50)は，Form Set/FSQ による CP 等位接続構造(等位接続詞 *hn* が顕在化)において，C と移動した要素間の素性照合・素性共有ができない例，(53)(55)(ATB)は，それらに問題ない例と考えられる。

(70) a.



b.



{...} = UUS by Form Set (before applying FSQ)

{δ, {α, β}}

c. {WH, {Conj / α = β , {C, { ... }}, {C, { ... }}}}

d. {WH, {{C, { ... }}, {C, { ... }}}}

[11] Merge (P, Q, WS) = WS’ = [{P, Q}, W, Y], where Z

(71) (70a,c)を仮定すると，i) Minimal Search で主要部が等距離に見つからず，素性照合が起こらない，ii) δ に素性共有によるラベルが与えられない，という問題点が生じる。→構造的条件としての CNC 不要

(72) (70b,d)に示す通り，Form Set により形成された UUS を仮定すると，これらの問題は起きない。

(73) (53) (WH 疑問 ATB) (55) (話題化 ATB)では，UUS の要素である 2 つの C の素性が，UUS に merge した要素の素性と，Minimal Search により 3 者間で等距離に検知され，必要な素性照合および素性共有がなされて，全体のラベルも与えられる。

(74) (40)(WH 疑問)(50)(話題化)は CSC 違反ではなく，UUS の要素である 2 つの C の素性と，UUS に merge した要素の素性が，Minimal Search により 3 者間で等距離に検知されるものの，Cの素性の片方が合致せず，素性照合・素性共有（また後者によるラベル付与）が適切に行われない[12]。

(75) 小谷(2009)が「頷き」として表出すると記述している等位接続詞*&* が *hn* と同じ頭の動きである場合，小谷(2009:(16))(=13a,b)は，JSL の WH 疑問と話題化における CSC 違反の例文ではない。

5．*hm-RS*((2)-④)による RS 領域[13]の接続

(76) Role shift (RS): "... the signer presents another's words, thoughts, or "point of view." (Sandler and Lillo-Martin (2006: 379))

(77) 【文脈(30)】妹の質問(=31): PT_2 SLEEP TILL DO $\overline{\text{WHAT}}^{\text{WH}}$ ‘寝るまであなた何をするの’

(78) 私の答え 4： a. *SLEEP TILL $\overline{\text{MANGA READ}}^{\text{RS_hm-RS}}$ (PT1) ‘寝るまで「マンガ読むよ～」’

b. SLEEP TILL $\overline{\text{MANGA READ}}^{\text{RS}}$ PT_1 c. *SLEEP TILL $\overline{\text{MANGA READ}}^{\text{RS}}$ $\overline{PT_1}^{\text{hm-RS}}$

(79) 主文の文末指さしは，C 主要部に生起する(Uchibori (2018))。Uchibori and Matsuoka (2013)は，主文の文末指さしが，文末 WH 要素に後続し，Q-NMM と共起する例(JSL の別の方言)に基づき，C 主要部の 1 つである $Force^0$ に位置すると仮定している。

(80) 私の答え 5：$\overline{PT_1}^{\text{TOP}}$ $\overline{\text{MANGA READ}}^{\text{RS_hm-RS}}$ $\overline{\text{SOMETHING EAT}}^{\text{RS}}$ ‘私はマンガを読む，そして何かを食べる’

(81) (80)に続く妹の質問：$\overline{PT_2}^{\text{TOP}}$ $\overline{\text{MANGA READ}}^{\text{RS_hm-RS}}$ $\overline{\text{EAT}}^{\text{RS}}$ $\overline{\text{WHAT}}^{\text{WH}}$ ‘あなたは「マンガ読むよ～」何を「食べるよ～」’

(82) 私の答え 6：$\overline{PT_1}^{\text{TOP}}$ $\overline{\text{SOMETHING READ}}^{\text{RS_hm-RS}}$ $\overline{\text{APPLE EAT}}^{\text{RS}}$ ‘私は「何か読むよ～」「リンゴ食べるよ～」’

(83) (82)に続く妹の質問：*$\overline{PT_2}^{\text{TOP}}$ $\overline{\text{READ}}^{\text{RS_hm-RS}}$ $\overline{\text{APPLE EAT}}^{\text{RS}}$ $\overline{\text{WHAT}}^{\text{WH}}$ ‘あなたは何を「読むよ～」「リンゴ食べるよ～」’

(84) (77)に続く妹の発言：$\overline{PT_1}^{\text{TOP}}$ KIMETSU WATCH ‘私は鬼滅を見る’

(85) (84)に続く私の発言：$\overline{\text{KIMETSU}}^{\text{TOP}}$ PT1 $\overline{\text{READ}}^{\text{RS_hm-RS}}$ $\overline{\text{SOMETHING EAT}}^{\text{RS}}$

‘鬼滅は，私「読むよ～」「何か食べるよ～」’

(86) (77)に続く妹の発言(=46)：NOON NEIGHBOR STRAWBERY GET. PT_3 BE

‘昼，隣からイチゴをもらった． ここにある’

(87) (86)に続く私の発言：*$\overline{\text{STRAWBERY}}^{\text{TOP}}$ PT1 $\overline{\text{MANGA READ}}^{\text{RS_hm-RS}}$ $\overline{\text{EAT}}^{\text{RS}}$

‘イチゴは，私「マンガ読むよ～」「食べるよ～」’

(88) (81)対(83)（WH 疑問）と(85)対(87)（話題化）のコントラストから，*hm-RS* の接続する領域からの

---

[12] 英語の CP を *and* で等位接続した場合，JSL と並行的に分析できるかどうかについては検討を必要とする。

[13] RS は phase head (C, v*)の[+RS]による動作主の人称変化によって引き起こされるとの提案(内堀(2018))に従えば，RS 領域は CP(引用 RS の場合)または v*P(行動 RS の場合)となるが，ここでは当該領域の範疇に立ち入らない。

抜き出しは，部分的には *hn* による CP 等位接続構造と同様のパターンが見られる。

(89) (39)に続く妹の質問：*PT$_2$ (TOP) READ (RS) WHAT (WH_**hm-RS**) FRUIT EAT (RS) ‘あなたは何を「読むよ～」果物「食べるよ～」’

(90) *hm-RS* の左右には *RS* が隣接する必要がある。(U&U(78))

(91) 【文脈(52)】友人の質問：YESTERDAY (TOP) ‘DUMPLING-GEN OSHO’ BUY (RS_**hm-RS**) EAT (RS) WHAT (WH)
‘昨日「餃子の王将」で何を「買ったよ～」「食べたよ～」’ WH 疑問の ATB

(92) (52)に続く私の発言：DUMPLING (TOP) BUY (RS_**hm-RS**) EAT (RS) 話題化の ATB
‘餃子は買った，そして食べた’

(93) ATB(91)(92)の文法性から，*hm-RS* が RS 領域の等位接続構造を標示しているという分析が支持される。

6. おわりに

(94) 本発表では JSL(愛媛方言)における NMM である *hn-STOP(NP)* ((2)-①)と *hn* ((2)-②)について，それぞれ NP と CP の等位接続構造を標示していることを，WH 疑問および話題化に関し，*hn-STOP(NP)* では CSC 違反が見られる事実，*hn* では ATB が許される事実に基づいて，示した。

(95) *hn* ((2)-②)による CP どうしの等位接続構造において，一見 CSC 違反と思われる例および CSC 違反の例外と見られる例について，この構造が Form Set/FSQ (Chomsky (2021))によって形成された UUS であると仮定し，素性照合・素性共有の生じる要素間の構造的距離から説明を試みた。

(96) “*The order is crucial as we can see by adding* <u>*respectively*</u> *or other linguistic devices [...]* .” (Chomsky 2021b:31)

(97) FSQ による UUS (= ordered set)の解釈上の特徴（順序情報）と，*hn* が標示する構造の持つそれとの違い → Form Set による UUS の外在化？

参考文献

Chomsky, Noam (2021a) Genuine Explanations. Talk at the 39th meeting of WCCFL, April 8th. Available at, https://www.youtube.com/watch?v=F6SbPKmVNVQ. /Chomsky, Noam (2021b) Minimalism: Where Are We now and Where Can We Hope to Go.『言語研究』160: 1-41. /Cormier, Kearsy (2012) Pronouns. In: Roland Pfau, Markus Steinbach, and Bencie Woll (eds.) *Sign Language: An International Handbook*. 227-244. Berlin: Walter de Gruyter. /Freidin, Robert (2012) *Syntax: Basic Concepts and Applications*. Cambridge: Cambridge Univ. Press. /Ross, John Robert (1967) Constrains on Variables in Syntax. Doctoral dissertation, MIT. /Sandler, Wendy and Diane Lillo-Martin (2006) *Sign language and linguistic universals*. Cambridge, UK: Cambridge University Press. /Tang, Gladys and Prudence Lau (2012) Coordination and Subordination. In: Roland Pfau, Markus Steinbach, and Bencie Woll (eds.) *Sign Language: An International Handbook*. 340-365. Berlin: Walter de Gruyter. /Uchibori, Asako (2018) Some Notes on Syntactic Functions of Finger Pointing in Japanese Sign Language. Invited talk at the Symposium “Evolinguistics Meets Signed Language.” Evolinguistics: Integrative Studies of Language Evolution for Co-creative Communication (MEXT Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas). Kyoto University. 15 December. /Uchibori, Asako and Kazumi Matsuoka (2013) Split movement of wh-element in Japanese Sign Language: A preliminary study. *Lingua* 183: 107-205. ／浅田裕子（2019）「日本手話における等位接続における特性(1)－等位接続の同時性における非対称分析」『手話学研究』28(1): 20-30. ／堀内靖雄，亀崎紘子，西田昌史，黒岩眞吾，市川熹（2008）「日本手話におけるうなずきと接続詞の分析」『電子情報通信学会技術研究報告』108(66): 91-96. ／市田康弘（2005）「手話の言語学(10)文構造と頭の動き―日本手話の文法(6)「語順、補文、関係節」」『月刊言語』34(10): 91-99. 東京：大修館書店. ／川崎典子（2021）「視線が作る時空間に産み出される事象－ロールシフトのシンタックスと意味」慶應言語学コロキアム. 3 月 21 日. ／岸本秀樹・有働眞理子・眞野美穂・木戸康人・前田晃寿（訳）（2019）『英文法大事典シリーズ 8 接続詞と句読法』東京：開拓社. (Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. London: Cambridge University Press.）. ／小谷克則（2009）「日本手話における等位構造」,『日本手話学会第 35 回大会予稿集』. 33-36. ／松岡和美（2015）『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』東京：くろしお出版. ／岡典栄・赤堀仁美（2011）『<文法が基礎からわかる>日本手話のしくみ』東京：大修館書店. ／内堀朝子（2018）「ラベルに寄与する素性について－手話言語研究から」慶應言語学コロキアム. オンライン. 3 月 18 日. ／内堀朝子（2021）「JSL で見る Set formation/Form sequence と数素性の一致」日本英語学会第 39 回大会ワークショップ. オンライン. 11 月 13 日. ／上田由紀子・内堀朝子（2022）「日本手話（愛媛方言）における接続詞としての非手指表現(NMM)について」日本言語学会第 164 回大会口頭発表. オンライン. 6 月 18 日.